

昭和12年2月1日（月）

朝より風強く、雨八時頃歇む。洋傘を持たずに出勤す。九時頃より降雨、終日歇まず。江崎君明日、郵便課長主事会議に出張のことになり居るに、命令不来。其の儘出発差支えなしと認め指令す。夜電報にて三十日発令、明日出発せしめられたしとあり。五時豪雨歇み相もなし。横町君小使いに命じ、傘を持来らしめらる。余之を断り、雨に濡れても僅かに十分間、小使いを遣るに忍びずと遮りしも、遂に持来らしめらる。風邪気配あり注意し居る。此日市会開会、市長未だ上京の儘、販り来らず。夜風寒し、入浴後早く寢床。天プラ多少胃を悪くしたる嫌いあり。年金三円受取り。家賃二円、外に為替五銭、料金例により支出す。午餐時、牛乳を注文、毎日飲み居る。

昭和12年2月2日（火）

朝来降雨、風頗る強し。二階北側風煽り、掃除二日欠く。今朝江崎君上熊。朝の食事に多く食べ過ぎ、具合悪し。胃散、相談所より貰ひ服用せり。此日も終日降雨。夜は雨歇み風風ぐ、割合に暖かなり。五時十分帰途に就く。此日、唐日紙に交換手の態度に不満の記事あり。監視員を遣わし取調べしむ。中島君には過般、野上君来局せしが、何の目的にて態々（わざわざ）来たりしかを尋ねたるに、中島氏の長女を養女に呉れとの談判に来たりしなりと。而して局長に折角転勤させて貰ひし計りにて、更に退職を申出ずべき顔前なしと云ふて、少時猶予を請ひしものの由。余の官舎を訪ねたるは、其の関係によると認めらる。仔細の事情判明、長女の退職は毫も差支えなき由、通告せり。夜ウドン食べ過食の注意せり。本日、林銑十郎大将内閣を組織し、親任式を行はせらる。逡相兼

摂農相、山崎達之助。

昭和12年2月3日（水）

曇り、降りそうな模様。午後次第に恢復、陽光を望む。四時頃より晴れ。午後満島局長臨局、恩給受給者と代理受給者との関係なり。余の意見を陳述置けり。今朝上厠十五分間、珍しく早く済まし、水浴両方で一時間余を費やす筈なるに、十五分余りを剩す。全部二階の掃除を成し終わる。

昭和12年2月4日（木）

朝の間快晴、立春に相応しき暖かさ。出勤途中、坂巻かねよさんに逢ふ。「どうしたの」と問えば、妹死去せり、是より販宅する所、今主事さんに電話して来たりしなりと云ふ。泪ぐみ居たり。江崎君より葉書にて中津奥畑、若松吉田、後藤寺河野、飯塚野口と一緒に泊まり合わせ、何れも余の健康を祈り呉れ居る由。別に祈らるる程の功德を積まねど、憎悪さるるよりは徳なりと申さめ。商業学校教諭、草野巖氏臨局方、午前十時から十時四十分まで見学を申入れ来る。応諾せり。坂巻氏より屢々貰い物せしことを思い出し、振替にて香料一円寄贈せり。落花生を買わす。一升七十銭を六十五銭にせり。即ち一升求む、之を持帰る。夜は可なり冷ゆ。午後より曇り、風強し。

昭和12年2月5日（金）

朝快晴。午餐の際、新聞記事に目を注（そそ）ぎつつありし中島君は、中津分室三日入札、十一万三千円にて東京村松組、村松靖平落札、十月末竣工とあり。延べ数360、鉄筋コンクリート二階建て。余即ち市役所に局長

を訪ねたるに、今回も上京の際、本省営繕課に行き極力促進方依頼せり。本省の意向は、現在局舎の裏を目標とし居れりと謂ふ。大島に電話を設くるの議も、逓信局より提案あれば出来るとあり。仍（よ）って余の起案せる請情書を提出して呉れる様、注意する所あり。辞して警察署長を訪ふて、唐津鉄工所にビラ撒（ま）きせる市会議員、木村宇太郎に就いて質す所あり。飯局して少時、警察より特高巡查臨局、ビラを持参し呉る。一細を報告置きたり。午後五時二十分帰宅。此日暖かにて、ストーブ前にて汗を流し居る。夜入浴後も流汗止まず。九時三十分寢床。

昭和12年2月6日（土）

晴れたり曇ったり、又驟雨模様。十時より商業学校生徒、先生に引率され臨局。十時五十分頃まで見学、次いで唐日新聞社に至る。此頃より細雨、少時して歇む。此日温暖にしてストーブ焚かずして、猶、流汗淋漓（りんり）たり。広美実父より返信来る。二郎立寄りし由、バナナ土産に持参せしやなり。広美の希望する娘は、両親共大不賛成なる旨、申出あり。相当の年輩とて貰ひたきは尤もなるも、人の世話にならずに準備が出来るまで辛抱することこそ、大切なるらめとの意見なり。九時半再び入浴、十時寢床。

昭和12年2月7日（日）

夜半より降雨。朝歇みたるも風次第に強く、冷氣加わる。大竹泰より葉書、四日飯飯したる由。九重二袋送り呉る。二郎は二十九日に常世に寄りし由なり、佐世保より電話。二郎女中を連れて秋田に行き、然も先方に就職口があり

し訳でないとのこと、夫れは大原の調査したる結果らし。
好さんより返信、自分の娘二十三歳、是に苦勞し居ると
あり。猶色々照会越したるに付き、今日回答發送し置き
たり。

昭和12年2月8日（月）

北の風強し、時々驟雨あり。江崎君昨日歸着の旨、挨拶
あり。朝体操の為、會議模様を聞いて居る暇なく、午餐
の際、雑談的に話あり。更に三時、建議案に付き余も意
見を述べ居る際、安藤逋信局書記臨局。次いで中町古
川某氏、区長と共に来局、函場問題にて陳情す。同氏等
去り、安藤氏と高島に電話局設置の問題を、先日市長の
話もあり、一応曩（さき）に陳情したる行き懸かりより、
本省の意向を話す。蓋し本省は陳情の対策として、可能
なる如き口吻を以てする常套手段なる如し。大島局長臨
局。四時まで居る。脱肛にて弱りし由。明九日長崎にて、
上海丸長崎丸に二等郵便局設置され、之が祝賀式挙行
に付き、祝辞を電報にて發送方、長崎局長より來臨に付
き、本日文案一円五十五錢を要する由。単なる慶弔電報
には感心せず、其の俣發送せしむることとせり。五時二
十分帰宅、夜風寒し。

昭和12年2月9日（火）

夜來強風、朝に及びて猶歇まず。天氣快晴なるも、冷氣
可なり強し。澄子風強き為、福岡行きを見合わせんとす。
此日を以て福岡行半額割引期日を終わるので、往ったら
よかろうと口添えす。終に仕度をして八時五十五分発にて
往きたる如し。然るに九時頃より、風歇み頗る上天氣と
なる。戸外の方暖かなり。五時少し前飯る。裏口より入

り門を開放す。広美より手紙来たり。父の反対に妻帯見合わせりとあり。末子氏よりも書面あり。夜パン焼き置きたるを卵一ヶと共に食す。風呂沸かす、八時半入浴。未だ販り来らず。北野又右衛門氏、手拭い幾枚か玄関に置かれてあり。風呂焚付け居たる際でも、音ないしものの如し。十一時過ぎ、道子澄子来る。余は十時寢床、寢鼻と見え来着を知らざりし。風呂を沸かして入浴せし如し。此の頃漸く目覚めたるも、其の儘再び眠りたり。夜は可なり冷却し、懐炉を腹に当て暖を採る。

昭和12年2月10日（水）

曇り勝ちなるも、朝の冷氣に反して、日中は温暖なり。殆どストーブの要なかりし。本朝久子居らざるを恠（あや）しみつつも其の儘出勤せしが、販りて来ても見えざりし故、尋ねたるに、納豆を買うべく泊まりたりと云ふ。此日、児玉秀雄伯通信大臣となり、山崎兼務大臣兼官を免ぜらる。ソゴウより各とんび送り越す。絨（じゅう）薄手、是れでラクダ地と謂ふかを分からず。矢張り実物を見て買うに如かず。八時半久子福岡より販り来る。今夜も至極暖かに、三月半ばの感あり。中島君八幡に娘を連れて行く。娘某氏余に挨拶に来る、色々余の意見を話し注意を促し置きたり。十三日の土曜会は警察署長を招待して、シーサイドホテルに於いて開催する由。ボーイ来る、出席する旨挨拶せり。久子の談なるが、野辺良助、昨日福岡に来れりと、秀夫の話なりと。

昭和12年2月11日（木）

紀元節建国祭。降雨、洋傘持参。九時開式、酒準備なし。十一時、孝子節婦義僕表彰式を、唐津小学校に於い

て挙行。三十分前に至るに、未だ紀元節式典終了しあらず。数名の来賓、控え室にストーブを中に漫談に耽る。余、校庭大川校長の半身（胸）像やら樹木に、夫々名称を附しあるを注視し、溝江庶務課長の後より控室に入る。福日記者あり。此日の表彰は数名あり。就中、図書館の女事務員某も其の一人なる如く、新聞に報道あり。然るに、孝子尋五松村義生一人なること判明、大いに市当局の軽率を責め居れり。松村は文盲母心臓病を患い、幼弟二名あり。良く貧困の間より朝は未明に起きて牛乳を配り、夜は遅くまで学業を励み、両弟を扶けて怠らず。其の徳行奇特とする由にて、市長より表彰状と金壺封を贈られ、担任先生の感激に満ちたる謝辞ありて、正午近く式を閉ず。市在住、有位有勲者盛装して式場にあり。此等総て来列、一段の光彩を添ふ。此の朝神酒を供え佳辰（かしん）を祝す。午後五時久子の要請に応じ、唐津座松旭斎天勝を観に行く。和服にトンビを着し二十分頃着。入場料三十銭、下足三銭、座布団五銭。曩（さき）に天華のを観たる眼には一長一短。但し魔奇術は天勝の方、面白く感じたり。十時二十分頃閉幕。澄子風呂を沸かして待つ、入浴して寢床。

昭和12年2月12日（金）

風雨夜来収まらず。昨五時頃、保険課入江係長、佐志局長と来。新岩井屋に一泊に付き、福田君等宿屋に晚餐を伴にしたる由。江崎君も行きたる如し。此日十時より煙草専売局、唐津販売所新築落成式を挙行に付き、九時半販り、モーニングに改めて式場に臨む。知事市長、主人側福岡地方専売局長中山治三郎、庶務課長等、来賓七十余名。十時四十分頃漸く開会。控室は事務室を、会

場は煙草取扱所（コンクリート面）を充当。落成式後、昭和十一年度優良煙草耕作者表彰式を挙げ、午後零時半より祝宴を開く。多数の紅裙（こうくん）座間を幹旋す。一時飯宅、再び出局す。恰度局の裏口を出発せんとする入江氏、福田、坂梨、黒岩の四氏昼食に行く処、余も同行す。新岩井屋に至る。下地は充分、更に酒を飲み、序でに飯をも食ふ。三時出発、駅に送る。改めて出局、五時半まで事務を執る。驟雨時々襲来、風頗る猛烈。夕食を採らず入浴、早く寢床。

昭和12年2月13日（土）

風雨、猶歇まず。此日とも二日間、二階東面三間掃除不能。福田君より天勝優待券式枚貰ふ。昨日世話人来たり、色々話して数枚呉れたる由。此日土曜会シーサイドホテル。四時半飯る。道子胃腸病、澄子久子行くこととなる。余五時に二十分ほど前、渡船場に至る。途中福田氏に逢う。船嵐の為、出でず。即ち引返しバスにて東唐津駅に、夫れより寧惡の道路を会場に、至れば二十分を過ぐ。猶待つこと三十分。六時より会場に入り、洋食にて七時終わる。三枝松署長の歓迎会、西山市長臨席あり。三枝松氏の感想の発表、荻谷助役の漫談、ホテル支配人の所感、武蔵珍談、七時半閉会。タクシーにて飯ることになりたるも、余は唐津座の天勝を観たき氣持して、単独出発。惡路を突破し、八時入場す。恰度足芸、瓶回しの場面、夫れより二時間。飯宅十時半、澄子等近路を採り先に到着す。余が七時帰りを変更して十時過ぎとなりたる為、怖くて寝られぬ不快を己にあるものとせず、徒に人に移すことの不見識さよ、蓋し我儘極まれりと謂ふべし。入浴、十一時寢床。風ぐ雨は時々降る。

昭和12年2月14日（日）

風風ぐ、寒冷加わる。朝十時十分地震あり。曇り、雪模様。霰（あられ）降り、小雪ちらつく。風、西に廻り次第に猛威を呈す。中島君八幡名物飴（あめ）届けられ、坂梨君妻女より貝、数貰ふ。手紙多数書く。夜に入りて風衰えず、寒気倍々強し。風呂に再度入り九時半寢床。道子粥食を摂りし如し。

昭和12年2月15日（月）

帝国議会停会中なりしが、本日再会。林首相兼外相、施政方針の演説あり。朝、白皚々（がいがい）屋根も道路も一寸程積もりしらし。幼童スケート穿いて盛んに躍動し居るも威勢よし。都城局、安楽庶務主事臨局。午後三時頃より、四時五十分発にて長崎方面に向かわる。横町君と余と駅に送る。四時十分市長を訪ふ。三時頃電話にて尋ねし処、市会臨席中とあり。市会終了後電話せしらし。乃ち行きて、相談所新築問題提唱す。土木課長、直方及び飯塚に出張の由にて、両市の施設を検討の上、対策を講ずることの諒解を得たり。五時半帰宅、二郎より手紙あり。檜木内村、高栄金山事務所に居る由。未だ創設間もなきこととて、設備不完全なるも見込みありとして不平でもなき様子、先々安紳せり。昌江より就職口なきに女中を連れて行きし如き口吻には、不慚、不安に駆られたり。本日逡信局より四日間、佐賀、佐世保、平戸三局見学出張被命。雪は道路より消え失せたるも、屋根には猶残れり。風、風かず。

昭和12年2月16日（火）

寒気強し、概ね晴れ。断続的雲はあるも、日中は割合に暖かなり。黒岩君会議に明日出発の由、挨拶に来る。陽光を受けざる屋根は雪、猶消えず。四時四十分飯宅。夜佐世保局より電話。経理課長武雄泊まり、明日貴局、次いで福岡に向かわる由。朝の間、風多少ありしも、比較的穏やかなりし。夜同様。髯剃る。

昭和12年2月17日（水）

朝寒感、殊の外強し。二十七分頃出局すれば、横町君既に在り。課長昨夜武雄泊まり、電話にて横町君も聞いて居らぬ故、明日判明次第通知すと。然るに本朝に至りて、課長十時過ぎ出発の旨、通知越しあり。中島君は駅に照会せしに、午後貳時過ぎ到着と称せりと。横町君は午後零時三十八分着、正当とあり。乃ち零時半各主事と出発、唐津駅に至る。二等車より出でらるるを見れば、年齒（としは）三十五六、熊本の素封家と云ふ。恰も此日煙草祭り、山車三つ計り、各売捌き所より一名ずつ出勤。鳴物入りにてたばこの赤旗を翻し、人数五六十名、敷島の空箱の図案を面として、変装せしもの多し。課長は一先ず局に案内し、昼食を出し、分室候補地を横町君と案内し、材木町宮崎氏の分をも見て市長を訪ふ。二十分間程話して三時飯局。四時二十分頃、宿屋新岩井屋に伺ふ。夕飯を接伴す。江崎、石原、福田、中島、横町と六名。八時飯る、入浴。夜天気定まり冷却の感あるも、風風ぐ。晴れ模様。巖より余の財産調べ、放送局より通知越しあり。本人は現金参百円を有せざるべからずとあり。此日、傭人七名の志願者に対し採用試験施行、採点す。十時寢床。課長相当酒は行ける如し。

昭和12年2月18日（木）

朝寒気相当強し。次第に曇り、雨模様となる。七時五十分、天気見込みのラジオ放送を聴くに、晴天の所、晴れ曇り相半ばする所あるも、雨模様を報せし向きなし。比較的樂觀して出勤し、十時、自動車に横町君と新岩井屋に行く。大久保課長新聞を見て居る。工務課長堤正間氏名護屋逓信工務課長に、星野貞治課長東京都市工務課長に、転任発表の件語らる。珈琲一杯馳走に預かり出発。市内、安田作兵衛の鎗（やり）、同人の墓地、近松門左衛門墓石など見て公園に至り、次いで鏡山に登り、虹ノ松原駅にて汽車を待つ。十一時五十分のに乗らる。虹ノ松原通路は舗装中、通路を堀立てて居り頗る悪路なり。零時十分到着。牛乳準備して居らず、別に何も欲せず。中島君考課表発送す。巖より放送局照会文書挿入回答方、申越す。夫れは余の不動産調表と、巖自身三百円の現金を貯金し居る証明を要すと云ふにあり。経理課長は福岡三局会計検査の講評に行きたるなりし。明日二局を、明後一局を済まして販局の予定とあり。五時四十分販るさ、雨降り出す。小使い官舎に余の洋傘を持参すべしと云ふ。余其の儀に及ばずと断りしも、不可して取りに行く。余夫れに不拘、退局。雨は殆ど降らず。警察裏にて小使いに行き遭い、洋傘を受取る。

昭和12年2月19日（金）

寒気相当なもの。天気概して晴れ、暖かなり。此日商工会議所樓上に於いて三等局保険打合会、逓信局より見塩書記臨席。当局よりも来観に福田、坂梨両氏行く。二時半頃終了。坪井局長島崎氏より、坂梨氏の転任希望の

理由に対し照会あり、返事せり。六時近く眠る。横町君より、予て細君が頼まれて居りしと云ふ某左官の家が空くことになり、借らんかと申出あり。直接電話で相談し呉れと逃ぐ。余は特に現在の家を移転する気持になれぬ為なり。相知局長会議に来たり。予ての問題を実行すべく立寄る積もりなりしやなるも、親しき者に逢え一緒に行かねばならぬ所もあり、今回は失礼するとのことなり。

昭和12年2月20日（土）

朝の間晴れ、次第に曇り。冷氣も漸次退散、温暖となる。唐日記者臨局。二十二日挙行総合競技、電話は午前、為替は午後、局長室を使用することとす。公衆より中間へ通話請求し、内部取扱いの行違いより、市内に接続せんとし料金の投入を求め、二十五銭を確認し、初めて行違いの事実を認知したるも、請求者は汽車の時刻の迫れし。以て其の儘退去せし事件に対し糾明す。次いで石原君の功課表作成発送の為、六時過ぎまで居残る。大竹泰より履歴書送付越せり。飯塚石原保、後藤寺川崎勲、書記補任官局報発表。

昭和12年2月21日（日）

夜半より降雨。本朝に至り一時小歇みたるも、再び降り出ず。大竹泰の為、平松様に手紙書く。巖より余の不動産証明に対し福岡市長宛て願書を調製、秀夫に委嘱す。澄子昨日カロリーパン製作、講習に出席しパン素一円にて購わせらる。本日メリケン粉、及び牛乳求め昼食に製造す。夜も余は之を食し、他の食を摂らず。消化宜しき様なり。かなり冷氣、十時寝床。

昭和12年2月22日（月）

雨天、朝曇り。通信総合競技、逋信局より中尾書記臨局。同氏は昨佐賀局競技を終え、終列にて晴芳館に泊まり、朝九時出局。最初郵便を集配手宿直室にて、次いで電信を同室にて、電話を局長室にて、午後五時より為替を同上室にて挙行。六時半終了。中尾氏は宿屋に引上げたり。此日午後六時五十四分、保険局小林秀樹氏、事業課書記佐世保より当地に来る。福田君之を栄徳屋別館に迎えたり。鉄道省北鉄買収視察四十余名来唐、各旅館に分宿の為、一流の向き満員の由。福田氏を除き他の主事は中尾氏宿屋に至り夕飯を共にす。八時半引上ぐ。中島、江崎両氏は折柄開演中の浪界耆宿（きしゆく）酒井雲を聴くべく行く。飯れば午後九時、風呂に入りて十時寢床。

昭和12年2月23日（火）

十時過ぎ小林書記臨局。氏痔疾、名古屋行きを中止して福岡に行くことにせし由。十一時半、福田氏送りて東唐津に至る。午後より昨日の競技成績審査、四時半より賞品授与式。次いで座談会を開き、午後六時半閉会。今日の昼食に江崎氏、先日パン食の講習会に臨み製品を弁当にし来る。横町君方にても行きたる由。夜、甘藷、カレーライス。午前中降雨、後曇天。

昭和12年2月24日（水）

保険課長堀雄二氏、書記木庭呉男氏、福岡經由午後零時8分東唐津駅着。余、福田君自動車にて迎ふ。定時着。降雨霧の如き雨。局にて少時休憩の後、午餐を薦め、次いで市役所庶務課長臨局。佐志局長及び名護屋局長

も一時頃出発の由。佐志長は早く来る。庶務長は課長を役所に連行、名護屋城趾を訪ふこととなる。途中相談所に寄り、一路なごやに向かわる。斯くて四時過ぎ飯来、福田君随ふ。一旦局に来られたる際、伊藤氏も臨局。五時新岩井屋に案内、それより自動車にて。錦屋三階には既に助役庶務長もあり。なごや佐志両局長、当局側は松崎、黒岩、小宮、坂梨、福田、余、計十二名。六時五十分頃漸く開会。八時半食事を済まして自動車にて宿屋に送り届け、余、松崎氏は其の儘飯る。入浴、寢床。

昭和12年2月25日（木）

細雨、八時十分新岩井屋に至れば福田君あり。既に朝食を済ましあり。自動車を招き、伊藤、中里両氏も乗り唐津駅に至る。八時二十七分発車を見送り、三十五分局に至る。驟雨時々至る。五時飯る。道子種痘に行きたる由。局にても、来たる土曜日午後一時より、全員に種痘励行方、示達せり。

昭和12年2月26日（金）

昨年二・二六事件一周年。高橋、齊藤等元老、事変の犠牲となりたるもの、泪新たなるものあり。昨年雪降り、而して本日天気快晴。気温余程上昇。午前十時突如、齊藤庶務課長臨局。整理問題、余は既に胆を決めて居り、何も泣事らしきこと謂はず。唯、巖の要求もありしに、集配長の口があれば箱（はこ）んで貰ひたしと云ふ。余り急ぎ洋傘を忘れて行かれ、後小使いを遣わさる。午後四時半より主事補会議、六時半飯る。久富悦子、基隆に与家移転に付き、父親来たりて退職方申出ず。同人は当地に残留を希望し居りしも、本日電報にて就職出来るから

連行せよと申し来たとかにて、更に協議し本人も行く気になりしとあり。父なる人にも面会し、悦子にも面接し、当地に残留の理由を問ふに、母が継母なりと云ふ。余は近頃入局せしものにて、退職の旨申出難きものあるを以てならんと思料せしも、案に相違せし返事に驚きぬ。川崎勲氏に毛の靴下巻を小包として送付方、澄子に電話せり。十銭料金かかりし由。先日同氏より切手貼り貰ひし礼なり。八時半入浴。中津より干餅送付越す。二三日前より皆喜び、食するを見る。

昭和12年2月27日（土）

降雨模様、洋傘持参。果然間もなく雨降り、殆ど終日歇まず。昨福田主事休養、此日出局。庶務課長臨局せし由、尋ねたるに付き、然りと答へたるが、幾分内容を想像し居る如し。来たる三日座談会あるに、各自より質問を徴し居るに、誰よりも申出なし。余より数問を提出置きたり。

昭和12年2月28日（日）

風雨歇み、朝の間は猶風強く、二階掃除逆風にて中止せしが、次第に霽れ暖かになりたり。午前中ヴァイブレーター到着。鉄道便にて、帽子及び毛布、青8, 50、格子10, 50、縁取り12, 50、計31, 50到着。昌江より書面あり。吉武より大原に宛てたる書面を同封。夫れによれば、大原の妻女が吉武を訪ふて取調べたるらし。その時の談にも、吉武は二郎の出発は唐津に行きたるやに思ひ居りしに、二郎より丈夫宛ての書面は東京駅より発送せしものにて、直接出発秋田に行きしことを知れりと謂ふ。女中が同行せしは後より聞知せりとあり。大山氏にも照

会せるが、是れ亦知らぬと返事ありて、昌江より大原へ其の旨通知せりとあり。余に相談ありと云ふ。三日に来佐を求め越せり。朝、昼澄子の製造パンを食す。前後せしが、帽子は青紺、5, 50少しく若い様。此日澄子、種痘に刀町某病院に行き、風呂に入ることを禁ぜられ二日間風呂休む。風強かりしも晴天。